

UM. A. 60-15514

Claim

A ceramic block for building, formed with crossing holes having opening mouths at left and right sides, characterized in that concave portions are provided, formed with vertical lines at one of the left and right sides for filling up a mortar, in a manner that the concave portions have a depth exceeding a predetermined covering thickness with respect to the vertical lines of the mortar.

公開実用 昭和60—15514

19 日本国特許庁 (JP)

11 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭60—15514

51 Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

43 公開 昭和60年(1985)2月1日

E 04 C 1 08

6730—2 E

1 12

6730—2 E

審査請求 有

(全 頁)

54 建築用横孔セラミックブロック

札幌市白石区厚別南3丁目16番
地の14

21 実 願 昭58—106464

21 出 願 人 北海道農材工業株式会社

22 出 願 昭58(1983)7月11日

札幌市北区北七条西六丁目一
番地

72 考 案 者 佐藤吉昭

21 代 理 人 弁理士 原田信市

江別市野幌町23番地

72 考 案 者 清水孝

明 細 目

1 考案の名称

建築用横孔セラミックブロック

2 実用新案登録請求の範囲

1. 横孔の開口部を左右側面に形成した建築用横孔セラミックブロックにおいて、上記左右側面の一侧に縦筋を配筋してモルタル等を充填する凹部を、モルタル等の縦筋に対する所定のかぶり厚を超える深さにして設けたことを特徴とする建築用横孔セラミックブロック。

3 考案の詳細な説明

本考案は左右側面に貫通した横孔たる空洞を有する建築用横孔セラミックブロックに関する。従来、上記横孔セラミックブロックは縦孔が在いたため芋目地積みに組積みしてゐるので、上方の荷重が下方に広く分散されないから馬乗り目地積み（倣り目地）の組積みの場合に比較して強度が低下するとともに、目地の外観も単調になる欠点があつた。

(1)

本考案は横孔の開口を形成した左右側面の一侧に縦筋を配設してモルタル等を充填する凹部を、モルタル等の縦筋に対する所定のかぶり厚を超える深さにして設け馬乗り目地積みに組積みできるようにしたものであり、その目的は上記従来欠点を解消することにある。

以下には図示した実施例のうち、まず横孔セラミックブロックAについて説明する。

横孔セラミックブロックAは押出成型により一体に成形し高温で焼成してあり、略横長直方体状をなし、前後フェイスシエル1, 1が垂直になつているとともに、上下ウェブシエル2, 2がそれぞれ下方と上方に向つて湾曲し縦筋を配筋する凹部3, 3が設けられている。また、その一側面たとえば左側面が垂直になつているとともに、他側面である右側面においてウェブシエル2, 2の端部が内方に湾曲した略半指円形状にえぐれて縦筋を配筋する凹部4が設けられている。

この凹部4は縦筋5に対するコンクリートあ

るいはモルタル等の所定のかぶり厚 6 (例えば建築基準法では 20 mm) の約 2 倍に相当する深さ D を有している。

b, ~ b, はそれぞれ左右側面に貫通した横

孔たる空洞で、それは、上記アースシール 1,

1 及びウエブシール 2, 2 に囲繞形成され左右

側面に貫通した空洞をウエブシール 2, 2 間に

形成した中央の仕切壁 7 と、この仕切壁 7 とア

ースシール 1, 1 の中間の仕切壁 8, 9 によ

り縦細長に略 4 等分した如き状態に形成され、

かつ空洞 b, と b, 、空洞 b, と b, がそれぞ

れ左右対称に配置されている。

10 は各空洞 b, ~ b, の左右開口間の全長

にわたつて押出成型により突設した規制部で、

それは、断面矩形の突条に成形され、空洞 b,

b, にはそれぞれ 1 個ずつ仕切壁 7 の側面中央

に沿つて水平に突設しているとともに、空洞 b,

b, にはそれぞれ 3 個ずつアースシール 1,

1 の側面に互いに等間隔で水平に突設している。

上記空洞 b, , b, の左右の開口は規制部 10

(3)

の部分で開口幅が狭くなり、あたかもこの規制部10のところにくびれて開口が実質的に上下2つの小さな部分に仕切られた状態になっている。

また、空洞 b_1 、 b_4 は左右の開口が3つの規制部10の部分で開口幅が狭くなり、あたかもこれら規制部10のところにくびれて開口が実質的に上下4つの小さな部分に仕切られた状態になっている。

しかして、上記横孔セラミックブロックAは、これを所要複数個、縦筋5を所要の間隔で組立した土台11に上下各段毎に凹部4の向きを左右逆にし、かつ互いの縦目地が上下段において略凹部4の深さDの分だけ左右にずれた片馬蹄目地の状態に架設し、各縦筋5を凹部4の中央に位置させて組積みすることができる(第6図)。

そして、縦筋5を配筋した凹部4の部分にモルタルを充填すると、前記の如く各空洞 b_1 ～ b_4 の開口が規制部10のところにくびれて実質的に2つあるいは4つの小さな部分に仕切ら

れた状態になつてゐるのに加え、モルタルの流動性が低いために、開口の縁のすぐ内側のところ若干流入しそこにつかえて詰つた状態になり固結するだけで、それ以上内方に流入しないもので、かくして充填されたモルタルにより縦筋5に對する所定のかぶり厚が得られる。

また、上記各空洞b₁、b₂、の開口のすぐ内側のところに流入したモルタルはそこのところのフェイスシール1、1、ウエブシール2、2、仕切壁7、8、9及び規制部10等に固結するので、その分鉄筋部分のモルタルと横孔セラミックブロックAとの接触部分が増して両者の結合が強化されている。

第7図は他の実施例の横孔セラミックブロックBを示し、それは、前記横孔セラミックブロックAとは縦筋を配筋する凹部12の深さが相違しその他の構成は同じである。

すなわち、上記凹部12の深さはモルタル等の所定のかぶり厚6の約3倍に相当している。しかして、この横孔セラミックブロックBは、

これを所要複数個、縦筋13を所要の間隔で植立した土台14に、上下各段毎に凹部12の向きを左右逆にしかつ互いの縦目地が上下段においてこの横孔セラミックブロックBの長さLの半分だけ左右にずれた真馬蹄目地の状態に乘戦し、各縦筋13を凹部12の内端からその深さの $1/3$ に相当する間隔をあけたところに位置させて組積みするとともに、縦筋13を配筋した凹部12の部分にモルタルを充填する。

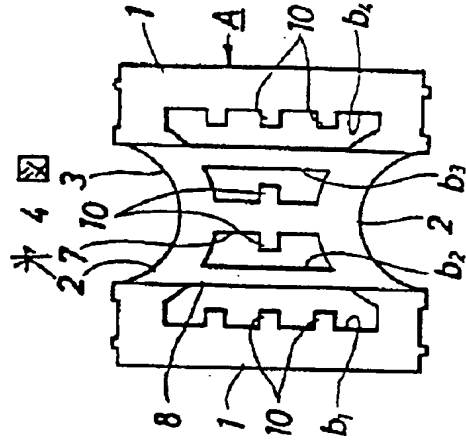
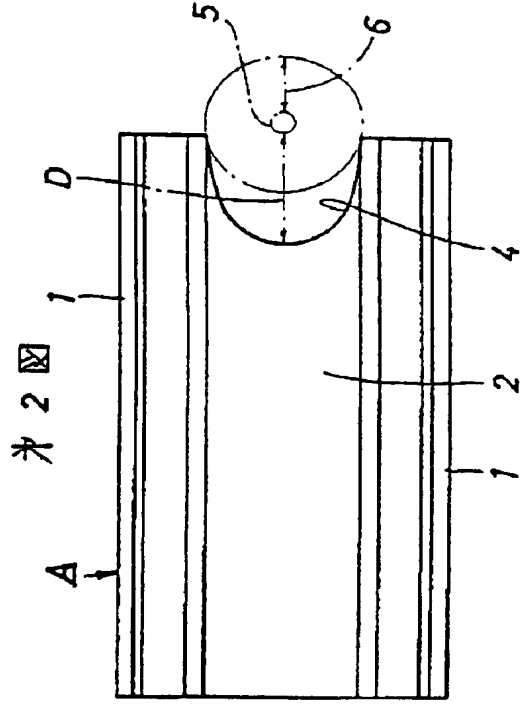
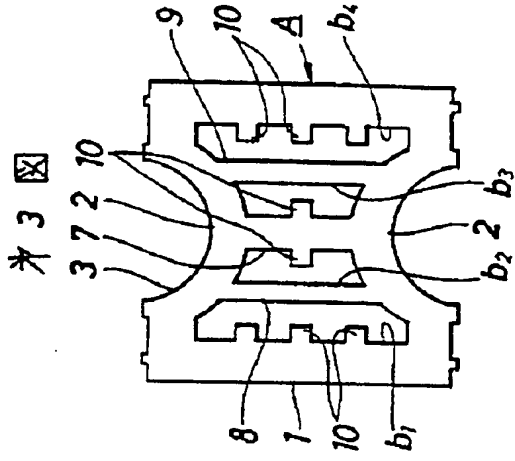
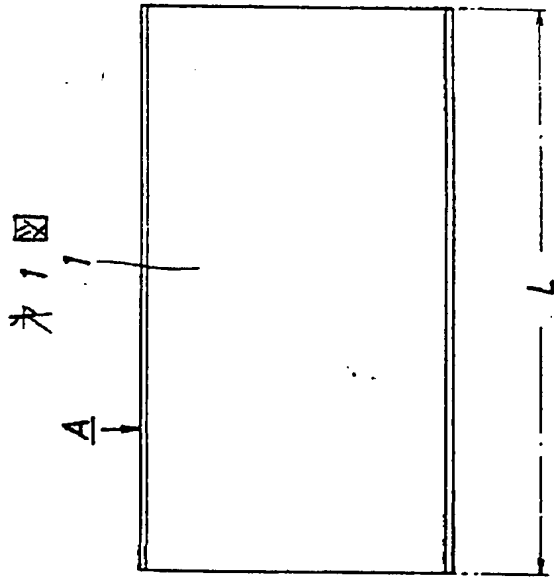
以上述べたところから明らかなように、本考案横孔セラミックブロックは、左右側面の一侧にモルタル等の縦筋に対する所定のかぶり厚を超える深さの凹部を設けたので、そのかぶり厚を超える分だけ縦筋を凹部の内方のところに位置させて縦目地を上下段において左右にずらすことにより馬乗り目地に組積みできるから、芋目地の組積みの場合に比較して壁体の強度を向上できるとともに、実施例に示した片馬蹄目地と真馬蹄目地の多様な馬乗り目地の外観を有する壁体を組積みできる。

4 図面の簡単な説明

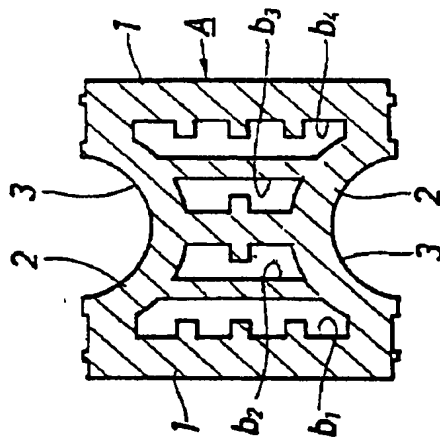
図面は本考案の実施例を示し、第1図は正面図、第2図は平面図、第3図は左側面図、第4図は右側面図、第5図は中央縦断面図、第6図は組み立て状態を示した正面図、第7図は他の実施例の組み立て状態を示した正面図である。

4, 1 2 ... 四部。

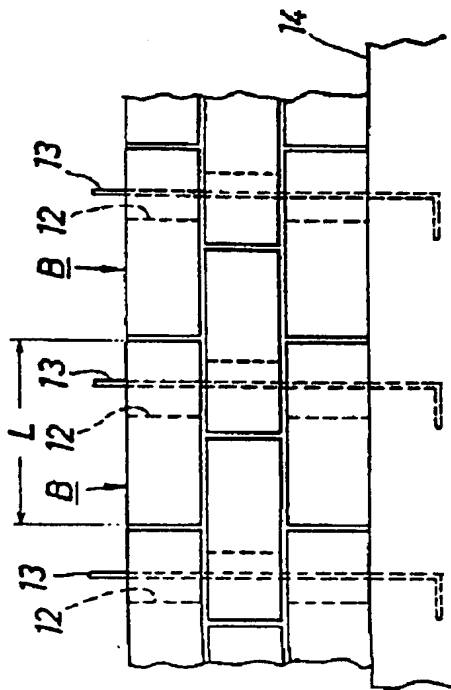
実用新案登録出願人 北海道炭材工業株式会社
代理人 弁理士 原 出 信 市



※ 5 図



※ 7 図



※ 6 図

